議事録

さいたま市立土合中学校　第２回　学校運営協議会

１　日　時　令和８年１１月１１日（水）１３時００分～１４時３０分

２　場　所　土合中学校　第一会議室

３　参加者　学校運営協議会委員　９名

《出席》

向井　義博　様　（青少年育成土合地区会会長・西堀連合自治会会長・西堀門前自治会会長）
島﨑　富夫　様　（道場第三自治会長　さいたま浦和地区保護司会　保護司）
日比　圭都　様　（土合小学校　校長）
松田　奈津子　様（本校ＰＴＡ会長）
金澤　　薫　様　（本校ＰＴＡ副会長）
清水　一司　　（本校校長）
舩水　光加　　（本校教頭）
岩佐　章文　　（本校教頭）

《欠席》

田辺　雄一　様　（青少年育成中島地区会会長）
田澤　　崇　様　（青少年育成栄和地区会会長）
中内　則之　　（本校学校地域連携コーディネーター）

４　内容

※委嘱状・任命書交付

（１）校長あいさつ　　さいたま市立土合中学校　清水　一司

（２）副委員あいさつ

（３）協議

⑴生徒による提案

＜副委員長＞

・デメリットに対する考えをまとめ、さらに試行期間を設けており、すばらしい。

＜日比委員＞

・生活のきまりは、学校の伝統として残っているものも多い。他にはどんな意見が出されていたのかを伺いたい。

＜生徒＞

・靴の色についても提案があったが、生活委員会で検討をさらに進める必要があると判断さ、今回の生活のきまり検討委員会へは提出されななかった。

＜松田委員＞

・小・中・高の段階に応じて、校則は変化していく。生徒たちで校則を見直し、決定し、実行して

いくことが重要であると感じる。今回も試行期間を経てうまく実行できるのではないかと思う。

⑵全国学力状況調査結果報告について

＜副委員長＞

・国語やG・Sは、「長文等を読む力」が、とても重要だと感じる。６年間長文読解を継続すると、学力は確実に向上するという結果も出ている。また、自分の意見をまとめ記述する力も重要だと感じる。

＜金澤委員＞

・一人１台タブレットにより、調べるツールは全てデジタルとなっている。このため、子どもたちが本や図鑑、辞書等を手にすることが少なくなった。これらのことが、今後子どもにどのような影響を与えるのかとても気になる。また、G・Sの授業は会話力を重要視しているように思う。受験で求められる力と差異があると感じている。授業とは別に受験時用の学習が必要になっていると感じている。

＜日比委員＞

・デジタルを止めることは、できない。ＡＩで調べればすぐに答えが出る時代であるが、小学校では考える時間を確保することを大切にし、すぐに答えを出さないようＡＩに指示を与える等、工夫をしている。

＜松田委員＞

・高校では、習熟度別授業の採用をしている学校をもある。中学校においても、一部だけ取り入れてもいいのではないか。

＜校長＞

・ご指摘の通り、個別最適な学習形態を提供していけるよう努力をしていきたいと考えている。習熟度別授業については、教員の数や場所等の条件があるため研究していきたい。このため、土合中学校では、一部の授業で自由進度学習を取り入れており、今後も時間数を増やしているようにしていきた。

＜日比委員＞

・小学校でも習熟度別授業を積極的に取り入れていた時期があったが、様々な課題があがっていた。学校は塾ではなく、様々な教育活動があるため、保護者の理解を得ながら実施していくことが必要であると感じる。

⑶部活動の地域展開の進捗状況について

＜島﨑委員＞

・先ほどの説明によると、休日の指導においても多くの教員が行っていることがわかった。今後専門性の高い教員が異動後に、元の学校に戻って指導するようなケースもあるのか。

＜校長＞

・物理的には、可能になるのではないか。

＜松田委員＞

・若い教員が増える中、休日は休みたいという教員が増えていくのではないか。またWワークで賃金が発生すれば了承する教員もいると考える。

＜金澤委員＞

・現在子どもが、土日が外部指導者になる中で様々な問題に直面している。ケガをした際の保険や遅刻する際の連絡先等戸惑うことも多い。

＜校長＞

・さいたま市では、土日の部活動においては、完全に学校から放すとの方針がでている。
また、この後開催されるまちクラブに関する協議会でも御意見を頂戴したい。

（4）その他

⑴ 学校運営等に関する意見書について

※　異議なく、意見書については承認

⑵ カスタマーハラスメントについて